

令和5年度 武生商工高等学校 学校評価書

| 項目 | 具体的取組(5年度) | 成果と課題 | 改善策・向上策 |
|------------------------|--|--|---|
| 1 教育課程 学習指導 教務部 | <p>a) 授業の予習・復習や課題を取り組むことで学習習慣の確立を図る。 <目標> ・タブレット等の情報通信機器を自宅学習でも活用し、自宅学習課題に計画性を持って確実に取り組ませる。 ・家庭学習の指導についての満足度80%以上を目指す。</p> <p>b) わかりやすい授業を念頭に置き、主体的・対話的で深い学びの授業実践を行い、生徒が自ら考え課題解決を図る力を育成する。 <目標> ・わかりやすい授業についての満足度75%以上を目指す。 ・自分の考えを持ち、協働(協力)した課題解決についての満足度70%以上を目指す。</p> <p>c) 学校行事や地域(企業)連携、生徒の活躍に焦点をあて、本校の情報や魅力を発信する。 <目標> ・学校行事の様子や学習の成果等をホームページや学校新聞に掲載したり、学校紹介の動画を作成したりして情報を発信する。 ・ホームページや学校新聞による情報発信の回数年間70回</p> | <p>○タブレットの活用がさらに進み、調べ学習、ICTを使った課題提出、定期考査のほか、プレゼンテーション、資格試験の自主勉強、LH時の役割決めなど生徒が主体的に利用する機会が増えた。タブレットを持ち帰っての自宅学習活用や欠席した際のオンライン授業が生徒の学びの保障につながっている。なお、昨年に引き続きフィリピンの学生とタブレットを使用し、オンライン英会話による文化交流を行った。</p> <p>○授業については生徒の91.7%がわかりやすいと回答した。話し合ったり、他者と協力したりする課題解決の活動を93%の生徒が行っていると回答した。こうした背景には、教職員がICT機器、グループワークを有効に活用し授業改善に努めたことがある。課題解決型の授業について教職員の85%がなされていると回答した。</p> <p>○学校行事や資格を含む学習成果について、ホームページによる情報発信回数および学校新聞の発行回数は昨年並みであった。これらの情報発信により、生徒の資格試験や部活動での活躍を多く伝達することができた。81.2%の保護者が必要な情報を得られていると回答している。</p> <p>○中学校説明会の際には、学校紹介のビデオの中で、その中学校出身の本校生徒からのメッセージにより、中学生に親近感を与えることができた。</p> <p>○年間を通して、学校公開(6月)、体験入学(7月)、中学生対象の進路個別相談会(夏・秋に各1回))を実施した。さらに、課題研究発表会(1月)には中学生とその保護者を招いて、本校専門学科の学習の成果をアピールすることができた。</p> | <p>○さらなる向上策としてGoogle Classroom等を活用し、考査前、検定前の家庭学習に取り組みやすくなるよう具体的な課題設定に、教科のバランスをとりながら継続的に取り組み、日々の家庭学習につなげる必要がある。</p> <p>○授業公開週間などを利用して教科の枠を超えた授業研究を行い、授業づくりの工夫を個人レベルにとどめない授業改善の取り組みを継続する。その際、「主体的な学びと評価」「対話的な学び」など統一テーマを設定し、学校全体が共通の一步を踏み出すための土台づくりが肝要である。</p> <p>○生徒の学校内外での活躍の様子を保護者や地域に適時に伝え、理解と協力が得られるよう情報発信の手段や形式を更に工夫をする。また、閲覧者の多いホームページの更新を早め早めに行っていく必要がある。</p> |
| 2 生徒指導 生徒指導部 | <p>a) 家庭との連絡を密にし、基本的な生活習慣の確立と、高校生としてのマナーの習得を図る。 <目標> ・生徒数に対する年間遅刻回数の割合が、1未満となることを目指す。 ・頭髪・服装について、年間の平均合格率90%を目指す。 ・交通安全重点指導週間を設けて、交通規則を遵守させ、交通マナーを身につけさせる。 ・SNSの適切な使用について啓発を図る。</p> <p>b) 生徒会を中心に、生徒が自ら考え行動する態度を育成する。 <目標> ・登校時の挨拶運動、ボランティア活動など生徒会を中心とした積極的な活動を推進する。 ・自主的な行動により、校内の諸活動を活性化させる。 ・キャンパス統一に向け、発展的な組織の改革を図る。 ・ホームページなどを通し、生徒の活動状況の発信に努める。</p> | <p>○生徒の情報を教員間で共有し、些細な変化に素早く対応できる体制をさらに進めるとともに、生徒が気軽に相談できる環境の改善・拡充に努めた。</p> <p>○高校生としての規範意識を持ち、多くの生徒はおおむね落ち着いた学校生活を過ごしている。家庭との連絡を密にし、問題の早期発見・指導に努めている。</p> <p>○朝の登校指導を通して生徒の状況を把握し、基本的な生活習慣の獲得を促した。生徒一人あたりの遅刻回数は昨年度の0.83回から0.64回へと、大きく減少した。家庭環境や個人の特性に応じたきめ細かい指導を今後も充実させたい。</p> <p>○頭髪・服装検査の年間平均の合格率は昨年度の81%から84%に向けた。目標に届くことはできなかったが、多くの生徒は態度を持った身だしなみを身につけている。教員全体で一貫した指導を今後も継続していきたい。</p> <p>○定期的な交通安全指導を通し、交通マナーの習得を目指した。大きな事故もなく、今後も継続した取り組みを行いたい。</p> <p>○キャンパス統一に向けた学校祭等の在り方について、生徒から広く意見を集め検討を重ね、活発な意見の集約ができた。今後も、発展的な改革を目指した自主的な活動を活性化させたい。</p> <p>○多くの生徒が活発に部活動に取り組んだ。また、両キャンパスでの交流もさらに進んだ。</p> <p>○ロングホームの時間を使い、両キャンパスの生徒が交流を深めた。</p> | <p>○身だしなみや挨拶・時間厳守の姿勢など、基本的な学校生活習慣を自ら身に付け、あらゆる場面で自分自身に自信を持ち評価される環境の維持に努める。生徒・保護者との信頼関係を保ち、安心で安全な高校生活の場を提供することに努力する。</p> <p>○生徒の些細な変化を見逃さないよう教員間の情報共有をさらに進めるとともに、生徒が気軽に教員に相談できる環境を維持し、信頼関係の向上に努める。</p> <p>○継続した登校指導を通し、落ち着いた学校生活の維持に努める。また、基本的な生活習慣の乱れに対して、生徒個々の実情に応じた指導を心がける。</p> <p>○頭髪服装検査については、数値目標設定と全教員一丸となつての身だしなみ指導を継続する。</p> <p>○集会や各クラスで交通安全意識の啓発を継続し、日常の登下校の様子について逐次評価し、生徒に伝える。</p> <p>○生徒会の自主的活動を推進し、挨拶・美化運動を継続する。ボランティアなど自主的活動で多くの生徒が参加するよう働き掛けを工夫するとともに、キャンパス統一に向けた自由な意見を集約する。</p> <p>○自主的な部活動への取り組みを維持し、キャンパスを越えた活動のさらなる活性化を目指す。</p> |
| 3 進路指導 進路指導部 | <p>a) 学校全体でキャリア教育を充実させ、さまざまな教育活動を人生設計と結びつけて考えることができよう支援する。 <目標> ・進路補習、小論文指導、面接指導などの進路行事を充実させ、多方面から生徒の進路決定を支援し、学校評価アンケートの進路項目の9において90%以上を目指す。</p> <p>b) 学校の実情に合った進路情報の提供、および大学入試改革など最新動向に対応した支援など、進路ガイダンス、進路説明会の充実を図り、より効果的な内容と情報提供方法(ホームページ等の利用)を検討する。 <目標> ・最新の進路情報を通じて、生徒の進路意識を高め、学習意欲を向上させ学校評価アンケートの進路項目の10において90%以上を目指す。</p> | <p>○工業キャンパスでは1年生、2年生とも職業講話や地元企業の職場見学などの進路行事を通してキャリア教育を充実させることができた。また、進路ガイダンスを行うことにより、就職・進学希望者それぞれの進路意識も高まることになった。3年生は外部の協力もあり面接指導の充実を図ったこともあり、進路情報提供と進路決定に関する満足度において生徒は90%以上を達成することができた。</p> <p>○商業キャンパスの1・2年生では、地元企業経営者や人事担当者による職業講話を通して、多様な職業や地域産業を知り、働くことの意義を理解することができ、将来の進路選択に主体的に取り組む態度を培うことができた。3年生は、進路情報の提供や、面接・小論文指導を丁寧に行うことで、90%近い生徒満足度に達することができた。</p> <p>○今年初めての試みとして両キャンパス合同での2年生とその保護者を対象とした進路説明会を実施して、将来の進路選択について深く考え、就職・進学への進路意識を高めることができた。職業ガイダンスや進路セミナー、進路行事を通じて職業や上級学校の情報を得ることができ、職業理解につなげることができた。</p> <p>○新型コロナウイルスによる進路活動の制限がなくなり、進路行事が計画通り実施できたが、これらを保護者に対しても情報を継続して提供していくことが課題である。</p> | <p>○1、2年生は、2月に進路希望調査を実施する。各種のガイダンスやセミナーの内容をより効果的になるよう企画し、希望調査をきっかけに進路意識の向上に繋げる。</p> <p>○面接指導や小論文指導、進路補習と進路実現に向けて早期から対応できるよう進路希望調査を基に、準備を進める。</p> <p>○次年度に向けて、各学年各学期に相応しいガイダンスやセミナーは何かを考え、内容を検討し実施する。</p> <p>○各学年会との連携を深め、情報の共有と適切な進路支援体制を確立していく。</p> <p>○保護者に来校頂いて進路情報を提供したり支援したりする機会は限られている。各学年会と連携・協力しながら、進路情報を提供する。企業の高卒求人情報や上級学校の入試形態(学校選抜型推薦・総合型)、学費に関連する資料など、最新情報の提供を心掛ける。</p> <p>○教育関連業者と連携することで、本校の実情を考慮しながら、ツールとしてのICTを活用した進路支援の構築を進めていく。</p> <p>○学校ホームページを利用しての情報発信に努める。</p> <p>○キャンパス統合に向けて、進路行事の統一化を進める。</p> |
| 4 保健管理 保健部 | <p>a) 自他の心身の健康に配慮できる生徒、特に感染症を予防するための行動が取れる生徒を育成する。 (目標) 感染症を予防するための行動が取れた生徒の割合90%以上</p> <p>b) 清掃指導を徹底し、ゴミの分別や身の回りの整理・整頓に留意させる。 (目標) しっかり清掃に取り組めた生徒の割合80%以上</p> | <p>○手洗いや換気など、感染症対策を適切に行っていることと答えた生徒が約91%、自分の心身の健康管理が適切にできていると答えた生徒が約92%であった。新型コロナウイルスに罹患する生徒は減少したが、インフルエンザに関しては、急激な流行が起こることもあった。</p> <p>○校舎・校庭・教室などの環境を美しく保つよう、清掃等を通して努力したと答えた生徒が約97%、ルールに従って適切にゴミの分別を行ったと答えた生徒が約99%であった。大部分の生徒はまじめに、清掃やゴミ分別を行っていると言える。ただし、教師の目の届いていないところでは、清掃やゴミ分別への意識がややゆるくなることもあった。</p> | <p>○うがい、手洗い、教室の換気など、感染症を予防するための行動が自主的にとれるよう、今後も指導していく。また、日頃から睡眠、運動、食事について意識させるなど、体調維持に努めさせたい。</p> <p>○教職員、生徒ともに6限目終了後にできるだけ早く清掃場所に移動し、清掃に従事する。また、ゴミステーションでは職員や保健委員が中心となり、分別についての具体的な指示を継続して行っていく。</p> |
| 5 図書指導 図書庶務部 | <p>a) 図書室の環境を整備し、新着本の情宣・朝読書の充実を通じて図書室利用の促進に努める。 <目標> ・読書量:年間1冊以上読む生徒の割合で80%以上を目指す。</p> | <p>○朝読書を通じて、読書に親しむ生徒が増えている。</p> <p>○新着図書の情宣を行い、利用者を増やしている。</p> <p>○工業キャンパスの図書室はリノベーションに伴い、令和6年度末まで図書の貸し出しが出来ない状態が続くので、読書の質量共に下降するのではないかと懸念する。</p> | <p>○家庭内での読書の質、量を増加できるよう保護者(家庭)との連携を考えていきたい。</p> <p>○令和7年度商工キャンパス統合に向けて、朝読書の実施方法等について来年度協議したい。</p> |
| 6 保護者との 連携 図書庶務部 | <p>a) 行事案内やPTA広報誌を活用し、行事への参加を増やす。 <目標> ・行事への参加者を、各クラスから複数名出るように配慮する。</p> | <p>○行事案内や広報誌の発行は、その都度うまくできた。今後も活発な情報発信をしていきたい。</p> <p>○PTA広報誌の名称を統一されていない。</p> <p>○たくみそば出店の際にそば打ちと保護者のゆで・配膳の時間に差ができて、保護者の仕事を待たせることになってしまった。</p> | <p>○案内や広報誌が保護者に確実に届くように考えていきたい。</p> <p>○緊急性のある行事については緊急メールを管理職と相談のうえ、利用していきたい。</p> <p>○自動販売機の価格差については、両購買部で協議したい。</p> <p>○たくみそばに於いて、保護者に仕事を待たせることがないよう人数調整や役割分担を考えていきたい。</p> <p>○PTA広報誌の名称統一をはじめ、部活動においてもより一体感がでるよう調整していきたい。</p> |
| 7 その他 (工業科) | <p>a) 基礎・基本、安全教育に重きを置き、実習・課題研究・就業体験・現場見学を通じ、工業技術者として必要な知識・技術・技能を積極的に身につけさせる。 <目標> ・課題研究では、地域の企業や官公庁、大学と連携しながら地域貢献を推進する。課題研究の発表を通してプレゼンテーション能力の向上を目指す。</p> <p>b) 福井フューチャーマイスター制度を活用し、資格取得に挑戦する意欲を高め、合格者の増加を目指す。 <目標> ・工業学科共通で受験する基本となる資格については、60%以上が合格するよう、生徒の学習状況を把握しながら取り組み方法を工夫する。各学科で将来必要あるいは有用な資格の精選を進め、取り組み方について検討する。</p> | <p>○実験・実習の決まりや手法を守り、安全な作業や服装、整理整頓、清掃、機械や工具等の点検を意識しながら取り組んでいる生徒がほぼ100%であった。</p> <p>○現場見学・工場見学を適宜開催し、実際に現場で使われている技術を学ぶことができた。</p> <p>○課題研究発表会に参加することにより、課題研究に取り組む姿勢を学ぶことができた。</p> <p>○工業科全体で福井フューチャーマイスターの認定を目指し、資格取得に取り組んだ。丙種危険物取扱者資格では63%、全国工業科長会主催の計算技術検定3級では93%と目標の60%を上回った。</p> <p>○商工デパートへの参加を通じて商業キャンパスとの交流を深めた。</p> <p>○課題研究では地元企業、行政および教育機関等と連携して取り組むことができた。</p> <p>○聴衆者にわかりやすいスライドを使い、研究成果を発表することができた。</p> | <p>○基礎基本・安全教育に重きを置き、実習・課題研究の内容を充実させ、就業体験・企業見学を通じ、工業技術者として必要な知識や技術・技能を積極的に身につけさせる。</p> <p>○工業学科共通で受験する基本となる資格においては合格者が増えるよう、タブレットやICT機器を活用した生徒の学習状況を把握しながら取り組み方法を工夫する。○各学科で将来、必要あるいは有用な資格の精選を進め、取り組み方について検討する。</p> <p>○引き続き商工デパートへの参加に加え、実習体験なども通じて商業キャンパスとの積極的な交流を図る。</p> <p>○校内課題研究発表会に向けて、各科において効果的なスライド作成や発表態度、質疑応答への対応等の向上を図る。</p> |
| 8 その他 (商業科) | <p>a) 課題・補習などを併せた適切な進捗計画により、各商業科目における目標資格級の取得率向上に取り組む。合わせて、福井フューチャーマイスターの認定を目指す。 <目標> ・資格取得の指導についての目標指数(進捗計画に沿って適切な資格取得のための課題を提供できた割合) 80%以上を目指す。</p> <p>b) 地域に根差した販売実習を実践し、継続企業としての運営を目指す。 <目標> ・株主・社員としての満足度80%以上を目指す。</p> | <p>○教職員および生徒の評価はともにそれぞれ、目標値を達成している。保護者の評価がここ数年目標値を下回っているのは、1・2年生保護者にとって福井フューチャーマイスターに関するデータが示されていないこと、これが原因と考える。コロナ禍を乗り越え、例年の検定試験対策が行われたこと、商業学科として検定試験の意欲と取り組みが定着し、資格取得奨励の結果は、継続して安定している。検定試験間近の指導が休校などと重なり残念なことも重なったが、A・Bを合わせ80%を超えた生徒の結果は、相応の評価と考える。</p> <p>○武生商工デパートは、商業学科としての大きな学校行事として入学する生徒に浸透してきている。ほとんどの生徒が、3年生のリードのもと、意欲的に準備や販売実習に取り組んでいた。</p> | <p>○例年以上に、補習や個別指導をおこない手厚く援助している。商業という専門科目は、時代に対応して変化していくので、商業科教員も常に最新の情報や知識を教えられるよう、教材研究等に取り組まなければならない。また、福井フューチャーマイスター制度を活用し、資格取得に対する意欲向上を目指していく。商業学科の大きな目標として、生徒一人ひとりが、複数の資格取得が可能になるよう、商業科教員が協力し合いながら、指導に努めていきたい。</p> <p>○今年度はコロナ禍後初めて入場を制限せず通常開催し、工業キャンパスの協力も得て準備に取り組んだ。来年度はキャンパス統合を見据え、学校全体での行事として準備していく。今後もますます企業とのコラボ商品の開発や広報等にも積極的に取り組み、地域や保護者を巻き込み、盛大な商工デパートになるよう生徒の意欲を向上させていきたい。</p> |